

[A22] 地域文化資源デジタルアーカイブの方法論

地域雑誌『谷中・根津・千駄木』のデジタル アーカイブ化を事例として

宮本隆史・片桐由希子・中村覚

地域文化資源デジタルアーカイブ・プロジェクト(東京文化資源会議)

<http://lda.tcha.jp/>

2018-03-10



地域文化資源アーカイブ

<http://lda.tcha.jp/>



The screenshot shows the homepage of the 'Local Culture Resources Archive' (地域文化資源アーカイブ). At the top, the English title 'Local culture resources archive' is displayed above the Japanese title '地域文化資源アーカイブ'. Below the title is a horizontal row of seven circular images: a black and white street scene, a colorful festival float, a map, a crowd of people, a traditional building, a festival float, and people holding lanterns. Below this row, a large red bracket encloses the text '地域文化資源アーカイブとは' followed by a detailed description of the archive's purpose. At the bottom center is a red magnifying glass icon with the text 'ワード検索' (Word Search) below it. A small upward arrow icon is located in the bottom right corner.

Local culture resources archive

地域文化資源アーカイブ

地域文化資源アーカイブとは

地域の伝統や歴史的な知識を、文化資源として蓄積し編集することを目的としたデジタルアーカイブです。そして、過去のことだけでなく、このアーカイブを基盤に、地域の文化活動や研究を触発し発展させ、新しい情報や知識も追加し、他地域と結びつける知のエコシステムの創出を目指します。現在のパイロット・プロジェクトでは、雑誌『谷中・根津・千駄木』を中心に、関連する情報のデジタルアーカイブを作ります。

ワード検索

報告の内容

- デジタルアーカイブ運営方法の類型と課題
- 谷根千デジタルアーカイブの構築プロジェクト
- 課題と展望

デジタルアーカイブ運営方法の類型と課題

公共財としてのデジタル文化資源

- 供給における排除性がない
- 消費における競合性がない

問題：

市場化困難な環境において、情報発信にかかる費用をどのように賄うか

公共サービス・モデル

特徴：

- 情報の供給側を重視

課題：

- 利用者の選好が明らかでない
→キュレーション
- 地域文化資源の公共性についての合意形成

コミュニティによる管理モデル

特徴：

- 情報の需要側を重視
- 情報の発信と利用の主体が重なる

課題：

- 地域文化資源を管理するコミュニティの存在を前提できない

谷根千デジタルアーカイブの 構築プロジェクト

東京文化資源会議の中での 地域文化資源デジタルアーカイブ

東京文化資源区構想のなかでの位置付け

都市政策モデルとして全国的・世界的意義の波及へ

東京文化資源区は、文化資源・知識資源を活用してレガシーとクリエイティビティ両面を提示できる重要な場所として、東京から全国に、さらに文化資源を備える海外の都市にも波及する世界的なモデルとなります。

本構想が目指すものは、以下に示すような都市における空間資源の再編成と文化戦略の転換です。

- ものづくりとアート・知識が会う新たな場（場所、機会、電子空間）の創造
- 民官産学を横断した交流・創造体験による地域創造人材の養成
- 地域の伝統的・歴史的知識資源を蓄積・編集するアーカイブの構築と活用
- 域内建造物等歴史・文化資源の保全と再活用

<http://tohbun.jp/>

地域文化資源デジタルアーカイブの構想

プロジェクトの目的

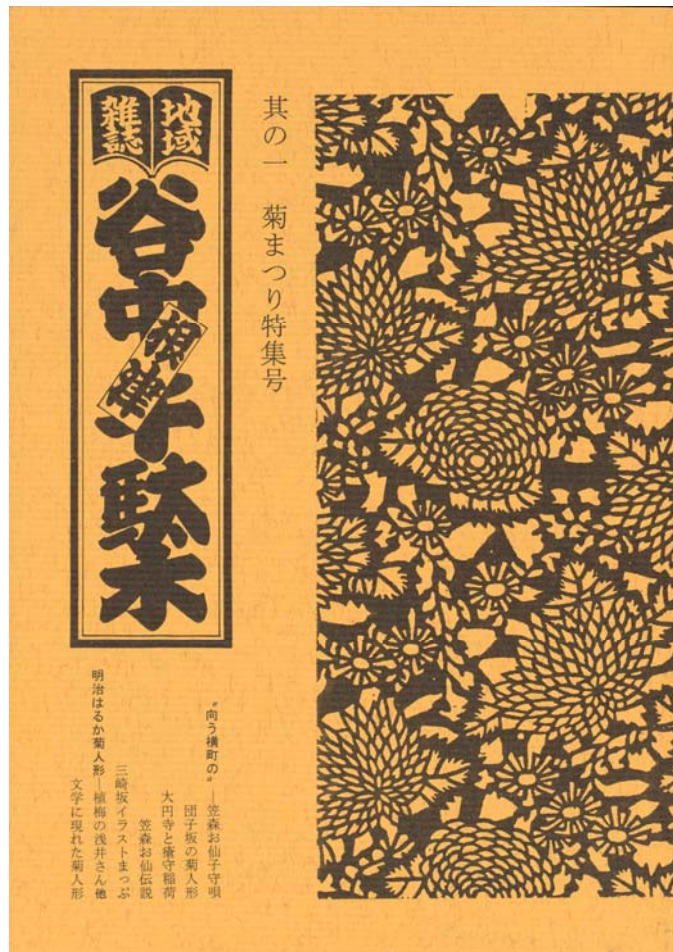
地域における活動のデジタルアーカイブ化

- まちづくり活動
- 地域誌
- 郷土史研究
- アートイベント等

地域におけるデジタルアーカイブの活用の仕組みの提示

文化資源 + デジタル技術
→ 地域における知のエコシステム

地域雑誌『谷中・根津・千駄木』



発行：谷根千工房
仰木ひろみ、森まゆみ、山崎範子

発行期間：1984-2009

NTTタウン誌大賞
サントリー地域文化賞

<http://lda.tcha.jp/view/archive/yanesen-01-001>

谷根千「記憶の蔵」の資料庫



大正時代の蔵

- 1階はイベントスペース
- 2階は谷根千工房資料庫
 - インタビューメモ
 - 草稿
 - チラシ
 - ポスター
 - 写真
 - 文献

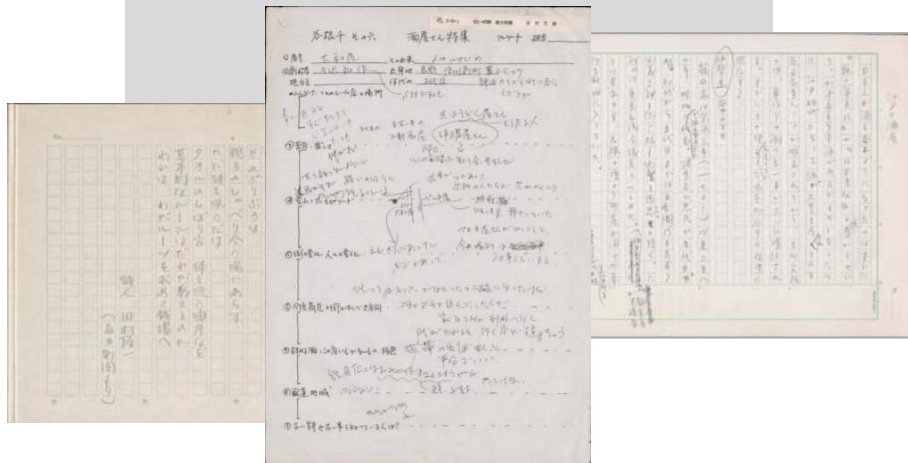
『谷根千』のデジタルアーカイブ・プロジェクト

雑誌『谷根千』



情報同士の関係のネットワークをデジタル技術を活用して描く

『谷根千』の原資料



デジタルアーカイブを地域につなげるための方法論を構築

デジタルアーカイブ・システムの構築

- NTTデータの協力のもとAMLADを基盤として構築
- 国立情報学研究所高野研究室のサーバ上で公開



Video of Vatican Library Digital Archiving Project by Vatican Library and NTT DATA

AMLAD

AMLAD^{®1*2}は博物館、図書館、公文書館（各種MLA機関）や企業が保有する画像、動画、音声などのデジタルコンテンツをPCやタブレット、スマートフォンといったデバイスから簡単に閲覧・検索できるデジタルアーカイブシステムで

『谷根千』アーカイブ

地域雑誌『谷中・根津・千駄木』とは



谷根千工房 地域雑誌「谷中・根津・千駄木」を1984年に創刊、仰木ひろみ、森まゆみ、山崎範子の3人で出資し、季刊、A5版、モノクロで、32ページから96ページの雑誌を足掛け26年、手作りで手で配ってきた。第一号は1000部から始まり、最盛期1万6千部を配る。2009年、94号で終刊。地域の歴史を掘り起こし、記憶を記録に変え、暮らすのが楽しいまちづくりに寄与する雑誌としてNTTタウン誌大賞（1回、4回、特別表彰など）、サントリー地域文化賞、山本有三記念地域文化賞など受賞。

ちなみにこの地域を「谷根千」と呼ぶのはこの雑誌が創刊されたことが由来である。1号は、谷中三崎坂の野池幸三さんと出会ったことにより、菊まつり特集号として、明治の団子坂菊人形を特集した。1984年時は明治末1911年まであった菊人形を実際に見た住民が70代で健在であった。

文・森まゆみ

関連リンク

- [谷根千ネット](#)
- [関連書籍の購入はこちらから](#) (Amazonへリンクします)

『全て表示』一覧



リスト表示



画像表示

表示件数

20件

表紙／菊模様の浴衣柄

雑誌記事



http://lda.tcha.jp/search?ct=archive_tag&cat=谷中・根津・千駄木

森まゆみ「30年後の谷根千」の連載



↓ ほしいもののリストに登録する

ポイントキャンペーン

scripta winter 2017

著者名：紀伊國屋書店出版部

著者名をお気に入りに登録する

紀伊國屋書店（2016/12発売）

ツイート いいね！ 30

内容説明

紀伊國屋書店出版部の無料冊子

目次

中古典ノスゝメ 42 「身勝手な男」を手記の形で描く ～遠藤周作『わたしが・棄てた・女』

30年後の「谷根千」 新連載 雑誌からアーカイブへ

ぱくりぱくられし 19

ROADSIDE DIARIES 移動締切日 8

哲学の門前 2 門と門番

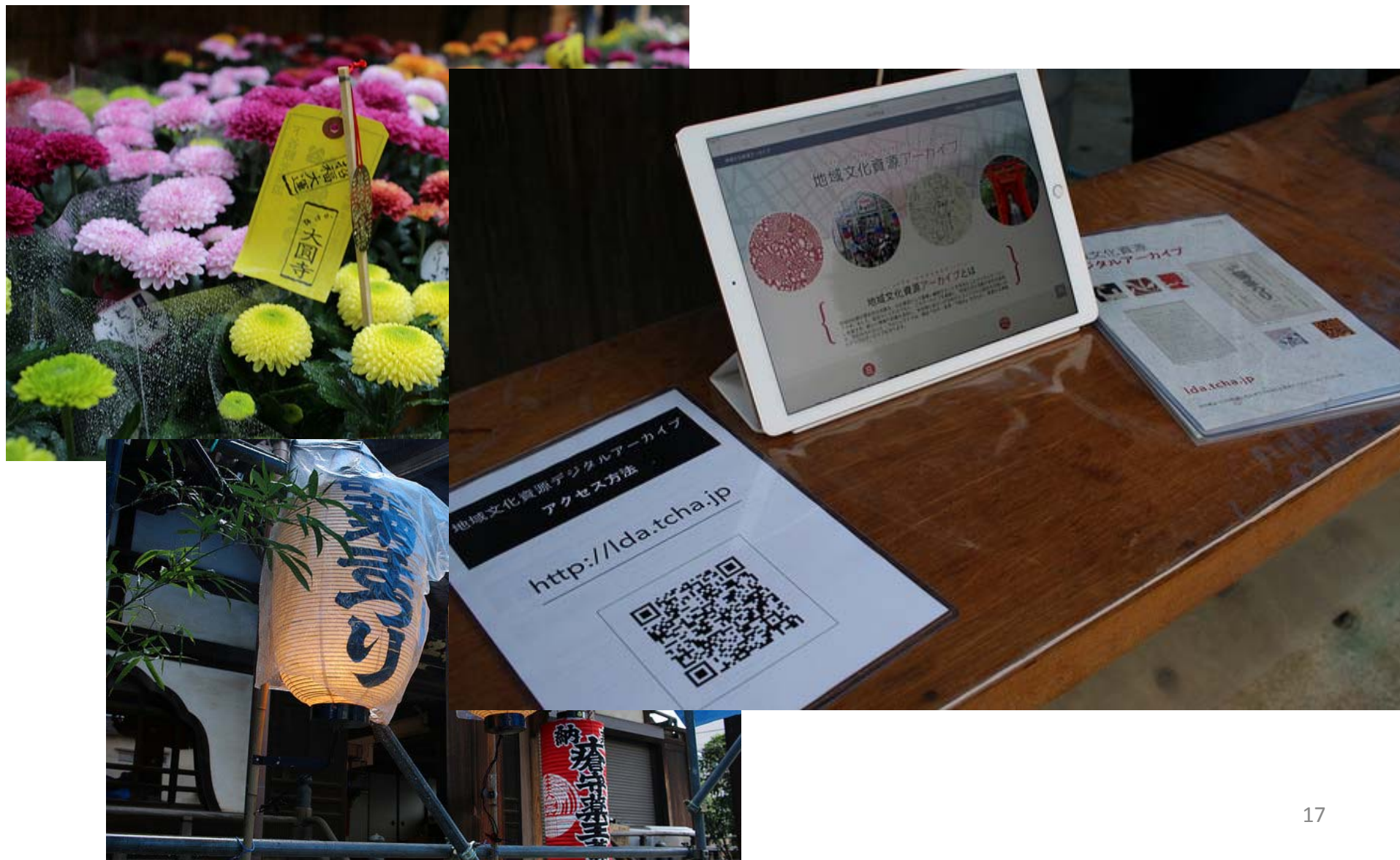
野の古典 10 祝詞としての和歌

中年の本棚 16 『赤グリ』と『青グリ』

森まゆみ
「30年後の谷根千」

『scripta』
紀伊國屋書店

谷中菊まつりでの展示



展示「はじまりの谷根千ー地域雑誌「谷中・根津・千駄木」とローカルメディアのこれからー」



HAGISO
台東区谷中

開催日程 11月8日
(水) ～ 11月25
日(土)

開館時間 8:00 -
10:30 / 12:00 -
21:00

会期中無休・入場無料

企画：HAGISO・谷根千
工房・東京文化資源会
議・地域文化資源デジ
タルアーカイブ・プロ
ジェクト
後援：たいとう歴史都
市研究会

展示「はじまりの谷根千ー地域雑誌「谷中・根津・千駄木」とローカルメディアのこれからー」



アーカイブ基盤を使ったアプリケーションの実験

アプリケーションの関係

AMLAD

地域文化資源の
継続的な公開



参考: digitalnagasakiのブログ,

<http://digitalnagasaki.hatenablog.com/entry/2017/07/04/041007>



×

- 地図年表マッピングのためのプラグイン「Neatline」
- IIIF対応プラグイン「IIIF Toolkit with Mirador」



アーカイブ基盤を使ったアプリケーションの実験

<https://diyhistory.org/public/iiif/ya-nesen/neatline/fullscreen/sento>



谷根千湯屋めぐり

子供が泳げば大目玉 真島湯
 旧藍染川沿い 谷中2の5の7 4:00~11:00 月休
 佐藤仁作さん
 昭和26年創業。当時のままの広い脱衣場、格子の天井が広くて気持ちいい。古い木の長イス、テーブルが長年の人肌ですり減ってステキ。これがない。赤ちゃん用年代物体重計もあるが、今赤ちゃん連れはほとんどない。常連客のおしゃべりにご主人も加わる。縁の悪口とか、老後の生きがいとか、悩みの相談とかをする場所なんだ。
 「雨の日にフロ屋であばれたのが楽しかったって中年のヤツが懐かしがるけど、ホント、子どもが誘い合ってきた日にゃ、すごい騒ぎだったよ。雨天体操場みたいなもんさ。ケガされちゃ困る、他の客の迷惑になっちゃ困るとけっこうなったもんだが・・・」とご主人も懐かしそうだった。

大きな金魚もいるよ 朝日湯
 谷中、三崎坂途中 谷中2の18の7 3:45~11:00 土休
 小島俊男さん
 牡丹燈籠で有名な法住寺跡。
 ご主人が留守でおばあちゃんの手子さんに聞いた。もとは坂の反対側、大円寺の隣にあって、昭和二十二年にこちら側へ。
 このお湯は一部、夏はカルシウム、冬は人參実母数の薬湯になっている。
 「お湯の味は石ころの味。うちは石ころの味。うちは石ころの味。」
「地域雑誌『谷中 根津 千駄木』2号」の全文

アンチックな下足箱に感動 初音湯
 天竺公園近く 谷中3の10の3 3:30~11:00 月休
 鳥谷宏治さん
 雰囲気の良いさではピカ一かも。よみせ通りから天竺公園へ抜ける少し曲がった路地の雰囲気もいい。木作りの建物も手入れよく年代物のつやがある。

プロジェクトチームの中村寛が構築

公開シンポジウム「地域の記憶と記録を今に活かす － 地域文化資源デジタルアーカイブの役割 －」



課題と展望

課題

現状：

情報の供給側への介入にとどまっている

今後の研究課題：

- 地域における情報の流通の実態の解明
- 地域コミュニティがデジタルアーカイブに求める機能要件の解明
- デジタルアーカイブの自主管理を担うコミュニティ形成のモデルの構築

プロジェクトの今後の展望

目的：デジタルアーカイブを基盤とした新たな公共性の構築

活動：

- 地域の文化資源のデジタル化
- デジタル化と発信のためのインセンティブ設計
- 地域の資料を広くつなげるシステム
- モデルを実装したリアルな拠点の配置

地域文化資源デジタルアーカイブ・プロジェクト

<http://lda.tcha.jp/>

プロジェクトチーム：

柳与志夫 [東京大学大学院情報学環]

宮本隆史 [東京大学文書館]

片桐由希子 [首都大学東京・自然文化ツーリズムコース]

眞籠 聖 [国立国会図書館]

井出竜郎 [NPO 法人アート&ソサイエティ研究センター]

中村覚 [東京大学情報基盤センター]

内田昂司 [内田写真事務所・LLP KANKO] (撮影)

協力：

森まゆみ [谷根千工房]

株式会社NTTデータ

国立情報学研究所高野研究室

ウェブサイト・デザイン：

DIAGRAPH